

# Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会  
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22  
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraiakyo/>

発行人 大曾根 理一郎

## 2020年度 基本方針

建設未来協議会 会長 大曾根 理一郎

本年4月7日に発出された新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が5月25日に解除されましたが、この疫病は未だ終息の兆しが見えず、世界を史上最悪の経済危機に陥れようとしています。感染防止の為に、「不要不急」な行動だけでなく、様々な産業が営業の自粛を余儀なくされ、国民生活や日本経済に深刻な影響を与えています。その影響は中長期に及ぶと予想され、民間企業の業績不振による設備投資の減少、また、これを機に民間企業は内部留保（ネットキャッシュ）を高める為、積極的な投資を当分控える事も予想されます。給与にも当然波及し、個人消費の落ち込みは、個人消費がGDPの大半を占める日本経済に大きく影響すると思われる。さらに個人収入の減少はデフレを再進行させ、再びデフレスパイラルに陥る可能性もあります。無論税収も落ち込む上、今回の経済危機に対する国債の大量発行で、財政赤字がさらに膨らみ、公共投資の減少と合わせて、建設投資全般に大きな影響を与えると予想されます。加えて、総務省が発表した2019年10月1日時点の人口推計では、外国人を含む総人口は9年連続の前年割れとなっており、経済がいずれ回復したとしても、人口減少はそれまでの経済の低迷もあり、歯止めが掛かっていないと思われます。人口減少は需要の減少に比例します。膨大な量のインフラをすべて維持する必要も経済的な余裕もありません。私たちは自分たちが住む地域のインフラの取捨選択を含めた、人口減少社会における街づくりの方向

性などを注視していく必要があります。

今般の疫病では自らの感染の恐れを顧みず、国民の健康、社会インフラ、生活インフラを支える人達、いわゆるエッセンシャルワーカー（非常に重要な働き手）と呼ばれる人達が献身的に活動されております。特に、医療従事者、公務員、食品販売従事者、配送業者などですが、近年多発する自然災害に対処出来るのは我々しかない事から、我々建設産業従事者もエッセンシャルワーカーと言えるのではないのでしょうか。しかし我々建設産業の現状は、先述の人口減少の影響もさることながら、高齢化が顕著で、60歳以上の技能者が全体の4分の1を占めており、10年後にはその大半が引退すると見込まれますが、これからを支える29歳以下の割合は全体の10%程度に過ぎません。一方で外国人人口は243万6千人で過去最多を更新。このうち生産年齢人口が207万人で85%を占め、20~30歳代だけでも130万人と半数を越し、労働力の減少を外国人が補う構図が確実に強まっています。働き方改革や生産性の向上は言うまでもありませんが、年齢、性別、価値観、人種などの多様性や、働く時間や場所(テレワーク)、作業内容(年齢や体力に合わせた作業)など多様な働き方を受容し、それを活かし



ていけるか否かが企業の持続性を左右する事になります。そして今般の疫病は改めて企業の危機管理、今後の業務のあり方について見直しを迫りました。先の震災を機に「事業継続計画」いわゆる「BCP」を多数の企業が策定致しましたが、災害だけではなく疫病に対する危機対応、テレワークの環境整備や欠員対策、接触機会の低減を図る為、不要な業務の見直しや事務作業のシステム化など、これらの一部は今後の働き方改革や事務作業の効率化にも繋がるでしょう。

今年度の我々の活動は大きく制限される事と思いますが、激変する社会環境の中で、我々がどう行動すべきかを考える有意義な機会にしなければなりません。経営環境の悪化は雇用環境に直結します。震災以降改善してきた雇用環境が逆戻りすれば建設産業は崩壊します。需要と労働力の確保、そして生産性の向上は持続可能な建設産業の構築には不可欠です。今後は産業構造の改革議論も避けては通れないでしょう。

今般「不要不急」な行動の自粛により、様々な

産業が大きなダメージを受ける事となりましたが、改めて世の中を見渡すと、世の中の大部分は「不要不急」のお仕事です。エッセンシャルワーカーもとても重要なお仕事ですが、この「不要不急」のお仕事があるからこそ人間は欲を満たし、人間らしく生きる事が出来るのです。我々建設産業は地域の基幹産業として、今後ますます地域経済、社会の発展への貢献が求められます。我々はこの疫病がもたらす影響を、単に禍として受け止めるのではなく、「禍を転じて福と為す」と出来るかどうかとも問われているのです。今年度もこれまで通り「建設産業の必要性和魅力を伝える活動」を行って参りますが、「不幸は知恵を生む」会員の皆様には是非「考える時間」も大切にしてください。

末筆ではございますが、今年度も本会の運営に対し、協会本部、会員の皆様、そして関係諸団体の皆様方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和2年度 第28回定時総会開催

総務委員会委員長 長山 朋之

当協議会の第28回定時総会は新型コロナウイルスの影響を踏まえ、書面決議形式により実施されました。議決日は令和2年5月19日(火)で、次の議案について賛否を募り、原案どおり可決されました。

第1号議案 令和元年度 事業報告の件  
第2号議案 令和元年度 収支決算報告の件  
第3号議案 令和2年度 事業計画の件  
第4号議案 令和2年度 収支予算の件  
書面決議結果につきましては、当協議会ホームページ内、会員情報に記載されております。(別途ID、パスワードが必要となりますので、閲覧されたい方は事務局までお問合せ下さい。)

また、通例では懇親会及び卒業生を送る会を開催していましたが、コロナ禍により延期とさせて頂きました。

## 台風19号義援金や骨髄バンクへ -皆様の善意を寄附しました-

本年も社会貢献活動の一環として、建設フェスタ内で実施した台風19号茨城復興支援募金およびチャリティーバザーの収益金、当協議会のチャリティーゴルフコンペの収益金を、令和元年12月18日(水)に以下の通り寄付致しました。

【チャリティーゴルフコンペ収益金寄付】  
令和元年度台風19号災害義援金 (44,000円)  
【建設フェスタ台風19号茨城復興支援募金】  
令和元年度台風19号災害義援金 (60,000円)  
【建設フェスタチャリティーバザー収益金寄付】  
骨髄バンクを支援するいばらきの会 (43,460円)  
茨城新聞文化福祉事業団 (43,460円)  
社会に貢献するための活動といたしまして、継続して実施して参ります。

建設未来協議会  
会長  
大曾根理一郎



## 円滑な業務へ行政機関と意見交換会

関東地方整備局 常総国道事務所 北首都国道事務所

県南地区幹事 鈴木 亮

令和元年10月2日(水)、土浦市内の茨城県県南生涯学習センターにおいて、意見交換会を開催しました。常総国道事務所の近藤進所長、北首都国道事務所の山田博道所長をはじめとする多くの方々にご出席いただき、現場管理の実務や入札・契約制度の取り組みなどについて意見を交わしました。

議事では、関東地方整備局から主要事業の概要、新・担い手3法、I-Construction～建設現場の生産性革命～、地域インフラサポートプラン関東の取り組みについて説明がありました。又、建設未来協議会からは、広報誌【NEXT】や、働き方改革に伴う意識調査結果など、現場から上がる生の声を報告しました。

続く意見交換会では、【若手技術者活用】【自治



体実績評価型】【技術者育成型】【技術提案チャレンジ型】【女性技術者の登用を促すモデル工事】等の多様な入札制度、週休2日制適用工事についての現場の感想やICT施工に関する地域の実情など、踏み込んだ内容の意見交換をさせて頂きました。建設未来協議会及び発注者からも忌憚のない意見が出て、有意義な意見交換会となりました。

関東地方整備局下館河川事務所

県西地区幹事 小倉 健太郎

令和元年10月4日(金)、下館河川事務所水海道出張所において、現場見学会及び意見交換会を開催しました。下館河川事務所からは青山事務所長をはじめ、多くの方々にご出席いただきました。

まず、平成27年9月の関東東北豪雨により被災した常総エリアにて、鬼怒川緊急対策プロジェクトの工事現場を見学させていただきました。各施工業者からは現場説明の他、施工するうえで工夫しているところなどの話も聞くことができ、大変有意義な現場見学会となりました。

続く意見交換会では、下館河川事務所と建設未来協議会それぞれの事業紹介の後、下館河川事務所からは鬼怒川緊急対策プロジェクトの進捗状況の説明や河川管理道路等をサイクリングロードとして活用するなどの様々な取り組みの紹介。未来協議会からは働き方改革に伴う意識調査結果の報告をしました。その後、管理者と施工者それぞれの立場からの受発注・施工管理業務に関する質問や問題点等について活発な意見交換が行われまし



た。それぞれ立場は違いますが、お互いにお互いを理解しようと努める事が生産性の向上に繋がると、さらには災害時の早期の復旧などにも繋がっていくのではないのでしょうか。

会員の皆様におかれましては、発注者に多くの意見を吸い上げていただける貴重な機会ですので、今後もこのような機会がありましたら積極的に参加していただき、建設業の今後の発展へとつなげていただきたく思います。

## 「建設フェスタ 2019」開催!



令和元年10月15日未明…記録的な大雨・暴風・高潮をもたらした台風19号により、茨城県はもとより東日本各地に甚大な被害が発生しました。建設フェスタ開催が約2週間後に迫っていたため、早急に関係者による協議が始まりました。一旦は建設フェスタ始まって以来の中止という判断もやむなしという状況でありましたが、茨城県土木部及び茨城県建設業協会をはじめとする建設フェスタ実施検討委員会の皆様の御尽力・御英断により開催が決定いたしました。それに伴い、台風19号被害の応急復旧への取組みや進捗状況を紹介する特設ブースの設置、ミニ上棟式の中止等の状況を踏まえた企画変更のアドバイスも頂き、開催へ向けて準備が進められていきました。

そして…令和元年11月2日(土)に、第26回目となる建設フェスタ2019が笠松運動公園にて開催されました。当日は雲一つない青空が広がっていました。午前9時、ハワイアンミュージックが会場に流れ、フラダンスショーでオープニングと



地域貢献活動委員会委員長 内藤 裕一郎

なりました。開始早々よりステージイベント、各ブース共に過去に類を見ないほどのお客様が来場し、行列ができておりました。特に、ステージイベントでは前回に引き続き「ねば〜る君」が登場すると、たくさんの子供達や親御さんが詰めかけ大盛況でした。また、重機や車両の展示・搭乗体験、ミニ消波ブロック製作をはじめとする人気コーナーは沢山のお客様が楽しんでおられました。ミニ上棟式については、参加券とお菓子を交換するという企画に切り替え、子供達に喜んで頂けたと思います。結果として、良い天候と関係者の入念な準備のお陰もあり、過去最大となる約26,000人のお客様がお越し下さいました。

最後になりますが、このような困難な状況の中でも、子供達が夢を育むことができる建設フェスタという大イベントの開催にご尽力いただいた茨城県土木部をはじめとする発注者各位、参加・協賛団体及び協力企業関係各位の皆様に御礼を申し上げます。



## 次代を担う 760 人が建設業を体験

現場実習・見学会を開催



次世代を担う高校生・専門学校生・大学生を対象に建設事業の正しい理解と魅力を感じていただけるように、毎年、現場見学会・現場実習を開催しております。今年度は建設現場実習に6つの高校から学生98名、3つの専門学校から学生112名、合計210名(昨対比+73名)に参加いただき、茨城県建設業協会の会員企業49社が受け入れ、各社で3日間の現場実習を行いました。昨年に比べ参加した学生が50%近く増加したことにより会員企業へ負担がかかってしまったところがあったと思われます。今年度はより多くの会員企業に受け入れを考えてもらい負担がかからないようにしていきたいです。

建設現場見学会は7つの高校から学生328名、2つの専門学校から学生167名、大学生54名の合計549名(昨対比+49名)に参加いただき、各

人材・システム委員会委員長 田口 富之

校がそれぞれ県内の2つの建設現場を見学しました。茨城県労働局の発表によると2020年3月に高校卒業予定の生徒について、建設業の求人数は1317人に対して内定者は296人となり、昨年に比べれば建設業における内定者は78人増加したものの、求人数に対して内定者の割合は22.5%と、まだまだ若年者の入職が少ないことは間違いありません。若年者入職者の更なる増加にむけて、普通科学生対象のインターシップ、働き方改革への取り組みを各企業で加速させることが必要であると考えます。

結びにこの事業にご協力賜りました茨城県土木部、国土交通省、実習生・見学性を快く受け入れてご指導いただきました会員企業の皆様から御礼申し上げます、ご報告にかえさせていただきます。



## 働き方改革セミナーを開催

人材・システム委員会委員長 田口 富之

令和2年2月7日(金)に茨城県建設技術研修センターにおいて31名参加のもと、アスミル社会保険労務士事務所の代表である特定社会保険労務士の櫻井好美様を講師に迎え「建設業における働き方改革セミナー」を開催いたしました。

今回のセミナーでは、年次有給休暇の取得義務、時間外労働の上限規制、雇用形態に関わらない同一労働同一賃金制等、2019年4月より順次施工されている働き方改革法案の中で特に早急に

見直していかなくてはならない点をわかりやすく解説していただきました。

日本全体の生産年齢人口が今後一層減少していき、それに併せて建設業の担い手も減少していくことは間違いありません。働き方改革を進めていく中で、企業の生産性も向上していくことが今日のセミナーを通じて重要であることを再認識することができました。

# 茨城国体前に花壇を整備

源氏川沿いでボランティア活動

高萩・太田地区 須田 要介



地域貢献活動として、毎年草刈り等のボランティア活動を開催しております。本年度は令和元年9月29日開催の『いきいき茨城ゆめ国体』に向けて、平成31年4月18日(木)に花壇の土入れ作業、令和元年9月19日(木)に常陸太田市内全域にプランターの設置を行いました。

常陸太田市新宿町の山吹運動公園が国体のソフトボール成年女子会場として使用されるため、市内はもちろんのこと、市外や他県からも多くの来訪者が訪れるので山吹運動公園前に流れる源氏川の堤防沿いをシバザクラで植栽し、沿道に彩りを



図る計画がありました。

そのため私たちは、シバザクラを植栽するための花壇づくりとして歩車道ブロックに生い茂る雑草などを刈り取り、現状の土を数十cm取り除いた後バックホウや人力作業で黒土を投入し敷均しを行い、微力ながら茨城国体に協力することができました。

今回は茨城国体に向けての美化活動でありましたが、今後も地域貢献活動として、草刈りやボランティア活動を定期的に行い、地域の皆様方に貢献できる活動を続けていきたいと感じました。

# 小学生が重機や土のう作り体験

大子町立生瀬小学校の49人

大宮・大子地区幹事 河野 真

令和元年12月9日(月)に、大子町立生瀬小学校の全校児童49人に重機の操作や土のうの作り方を指導しました。重機体験ではミニバックホウ2台を使い、補助員がつきながら、アームやバケットの操作を体験してもらいました。

土のう作りでは、学校にある砂場を清掃し、ふるい機にかけた砂を土のう袋につめて所定の場所まで運び、積みました。

砂場清掃も児童と共にスコップでふるい機に入れて異物を取り除くとともに敷均しを行い、自分



達で使っている砂場を大切に使う気持ちになってもらいました。

最後にグレーダーを使いグラウンドを整地し、見学した児童たちは、重機の大きさに夢中になっていました。終了後には、「ドキドキしたけど楽



しかった」と言う子どもたちの笑顔が印象的でした。

建設業がみなさんの生活に欠かせない大切な仕事をしていることをアピールするとともに、子供たちが今後の仕事を決めていく材料にしてもらおうという目的で実施した体験学習でしたが、子どもたちの笑顔を見て、今後もこのような活動を積極的に実施していきたいと感じました。



# ベンチ付きテーブル製作を体験

神栖市立横瀬小学校6年生80人

鹿行地区幹事 郡司 誠

令和元年12月2日(月)に当地区のベンチ付きテーブル製作体験学習を神栖市立横瀬小学校にて開催しました。

この体験学習は、みんなで協力してベンチ付きテーブルを作ることにより、一緒にものを作る楽しさや達成感を体験してもらい、これをきっかけに将来建設業が選択肢になるようにと毎年実施しています。

当日は、当地区会員14名と6年生(80人)を4つのグループに分け、組立図面を生徒たちに見せ、電動ドリルの使い方や作業時の注意事項を説明し、当地区会員指導のもとグループごとに作業を開始しました。生徒達は、電動工具にドキドキしながらも真剣に作業を行い、グループ20人と多かったのですが、作業できない生徒がいないよう順番に和気あいあいと楽しそうにベンチづくりに取り組みました。完成後はみんなでベンチに座り各班ごとと全員集合しての記念撮影を行い、生徒たちから「みんなで協力して楽しかった」と感謝の言葉を貰いました。最後に潮来支部長から校長へ目録を贈呈し、終了しました。



## 園児とともに砂場クリーン作戦遂行 —築山や遊具の新設、重機も体験—

地域貢献活動委員会 副委員長 高野 弘康

「子供達に安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらう事」を目的とし、昨年度に引き続き「砂場クリーン作戦」を那珂市にある「社会福祉法人豊潤会 ごだい保育園」にて、令和元年6月27日(木)に実施致しました。



この企画は、これから未来へ羽ばたいていく次世代の子供達に、安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらう事と共に、自分達が直接関与し、自分達で砂場を綺麗にしたんだという達成感を自らの成長につなげてもらえればと、地域への貢献する活動として砂場清掃奉仕活動を実施しています。

作業内容として

- 1 重機、人力スコップにより砂を場外へ掘り起こす作業。
- 2 電動振るい機、振るい網(人力)による、異物除去等振るい分け作業。
- 3 振るい分けによって目減りした砂を補充する補充作業。
- 4 口に入れても無害な消毒液散布による、除菌・抗菌作業。
- 5 犬猫等の小動物糞尿害を防ぐ為の防除ネット製作・設置。

今回の砂場クリーン作戦では園児達に振るい網による振るい分け作業を体験してもらいました。カラーコーンやバーなどで安全管理をしながら重機やダンプトラック等を搬入した為、実際の建設現場のような光景に園児達も大興奮で「おじさん

「子供達は大人の行ってることに興味を持っています。今回の体験は建設業を知ることの出来る貴重な機会であり、子供たちの将来の職業選択の際に役立つと思います。今後もこうした活動を続けて頂きたい」と感謝の言葉を戴きました。そのお言葉と共に作業初体験で目を輝かせていた園児達の姿を思うともっとこれからも地域の為に貢献できる委員会として活動できればと強く感じました。そしてその活動が、延いては私たち建設産業の発展に繋がっていくものと確信いたしました。

最後に今回の活動にご協力いただいた「社会福祉法人豊潤会 ごだい保育園」様に感謝を申し上げますとともに、地域貢献活動委員会を中心とした多数の人数で参加して下さったスタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。今後もこのような活動への変わらぬご協力、ご指導の程よろしく願い申し上げます。



## Twitter を活用した業界 PR を模索 関東地方整備局と積極的に意見を交換

関東建設  
青年会議

令和元年9月30日(月)、ラフレさいたまで2019年度(令和元年度)通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、当県の増子秀典会長が「適正な利益を確保することは、若い人たちから見た建設業の魅力向上につながる重要なこと。時代はものすごいスピードで変化しており、世の中の仕組みも変化していく。建設業も女性技術者活用、週休2日、ICT施工が現実になってきている。社会から理解され、応援してもらえらる業界にならなくてはいけない」と、あいさつ。議事では、会員相互の情報発信・共有を掲げた事業計画(案)や昨年度の事業報告について報告・承認されました。

続いて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、働き方改革に伴う意識調査結果、ツイッターを使用した業界PR活動などに関して意見交



換会を実施いたしました。

意見交換会に際しては、関東地方整備局の中込淳企画部長から「災害が激甚化しており、建設業の皆様と連携を深めていかなければならないことを改めて痛感した。さらなる連携に向け、ご支援ご協力をお願いします」とのお言葉をいただきました。

増子会長のもと、本年度も会長県として、引き続き全力で取り組んで参りたいと存じます。

## 全国から若手経営者ら600人が参加

全国建設青年会議全国大会 九州ブロック主幹

24回目となる全国建設青年会議全国大会が、令和元年12月6日(金)に、九州ブロック主幹のもと「子どもたちへ建設業の未来を繋ぐために～『働きたい建設業』をつくる～」をテーマにリーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)で盛大に開催され、全国9ブロックから若手経営者ら約600名が参加しました。

冒頭、高野大介大会会長(九州ブロック)が「建設業は深刻な人手不足、高齢化からその存続を危惧されている。子供たちにとって希望や輝きのある産業にしなければならない。自分たちが子どもたちに誇れる建設業にしていかなければならない」とあいさつし、赤羽一嘉国土交通大臣からは「適切な工期、価格の設定や施工時期の平準化により週休2日の実現を図るとともに、i-Construction推進による生産性向上を図り、新

3Kといわれる魅力ある産業を目指す」と祝辞をいただきました。

その後、山田邦博国土交通省技監が「『働きたい建設業』に向けた国土交通省の取組」と題して特別講演し、噂の土木応援チームデミーとマツが基調講演「デミーとマツ式 伝わる土木広報」を行いました。

講演を受けて「『働きたい建設業』をつくる」をテーマに、外部の有識者らを交えてパネルディスカッションを行い、これからの建設業のあるべき姿、今後の変革、次世代の若者たちに魅力をどのように伝えていくべきかなどについて話し合いました。

建設業の未来を語り、全国の仲間と価値観を共有することで、これからの繋がる大会となったと感じております。

## 働き方改革の課題など共有 於 茨城県

北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議

令和元年9月12日(木)、茨城県水戸市(ホテル テラス ザ ガーデン 水戸)において、茨城県、群馬県、栃木県の北関東三県建設業協会の若手経営者らに加え、千葉県建設業協会の青年部会にもオブザーバーとして参加していただき、「北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議」を開催しました。

会議では、地域貢献活動や人材育成事業、発注者との意見交換会など、それぞれの事業について報告したほか、各県における建設業の働き方改革などについて意見を交換しました。

本会議は、各県の建設業協会に所属する若手経営者らが建設産業のあるべき姿と方向性を議論・検討するとともに、各県の活動内容を把握する目的で、平成24年度に栃木県を主幹としてスター

トし、今回で二巡目を終わりました。継続的な開催により、各県の関係はより一層深まっていることを感じます。今後も親交を深めると共に、お互いが抱える問題・課題について解決の糸口が見えるような有意義な会議を継続して開催していければ幸いと考えております。



## 第2回いばらき「建設フォトコンテスト」を開催

広報委員会委員長 栗山 秀樹

広報委員会では、建設業や当協議会の活動の情報発信をSNS、プレスリリースを通して行っております。その一環として2019年は初の試みとして「いばらき「建設フォトコンテスト」」を開催致しました。

全国各地から応募を頂き、総数にして800を超える作品をお子さんからお年寄りまで多世代に渡って沢山の作品を送って頂くこととなりました。

作品を見るとプロ顔負けの撮影技術を用いて建築美と自然の美しさを表現したものから、小さな後ろ姿で食い入るように重機を見つめる様子が何とも愛くるしいほのぼのとしたものまで様々な趣向の作品をご応募頂きました。

今年度も昨年に引き続き「いばらき「建設フォトコンテスト」」を開催します。

一眼レフからスマホ写真まで、Webまたはプリント郵送でお送り下さい。

たくさんのご応募をお待ちしております。

【応募締切】2020年9月30日(水)

【賞品・商品】最優秀賞/5万円の商品券・賞状ほか

詳しくはWebページをご覧ください



ホームページ



Facebook



Instagram

## 委員会紹介

### 総務委員会

- 担当副会長** 櫻井俊一 (櫻井建設工業(株))  
**委員長** 長山朋之 (長山工業(株))  
**副委員長** 田山浩之 (第一熱学建設(株))・須田要介 (日立土木(株))・河野真 (株河野工務店)・石津弘敏 (常総開発工業(株))・島崎崇 (北条工業(株))・仁平大介 (株仁平工務店)  
**委員** 菊池康平 (菊丸建設(株))・平山悠 (株水府工務店)・大曾根篤 (大栄建設(株))・吉原政文 (吉原建設工業(株))・飯塚揚 (株飯塚工務店)・石津松吾 (石津産業(株))・楠木大輔 (楠木建設(株))・飯塚亮平 (飯塚建設(株))・田林剛 (勝工業(株))・田所大和 (株ワイエスケイ)・白田諭 (白田工建(株))・柴信一 (旭建設工業(株))・中山英士 (のだや建設(株))・根本忠志 (株根本工業)・松本浩治 (株新栄開発)

### 人材・システム委員会

- 担当副会長** 新井紀雄 (新井土木(株))  
**委員長** 田口富之 (株田口工務店)  
**副委員長** 荒川繁美 (水戸土建工業(株))・横田修一 (株横田建設)・井坂陽介 (株井坂組)・赤塚剛 (株赤塚土木興業)・大和田隆之 (株大和田建設)・染谷真一 (株染谷建設工業)  
**委員** 雲井憲正 (株雲井工務店)・黒澤勝 (アルプス建設(株))・小池良一 (株小池工務店)・中井将史 (株中井工務店)・中野陽平 (株根本組)・石井貴之 (株石井建設)・大森裕一郎 (大森建設(株))・齋藤靖弘 (株サイトウ緑地開発)・藤井雅成 (株丸二工務店)・安藤祐章 (株鹿島企業)・飯島新史 (飯島建設(株))・谷田川智久 (株ホソヤ工務店)・佐々木祐也 (常磐建設(株))・寺田健一郎 (株羽原工務店)・鈴木亮 (北都建設工業(株))・川田秀樹 (株川田建材工業)・鮎川和男 (飯田建設興業(株))・堀江平 (堀江産業(株))・串田一仁 (株クシタ建設)・中山英俊 (株染谷工務店)・野口貴生 (野口機設工業(株))・新井邦幸 (株新井建設工業)・印出正人 (株丸健工業)・大橋一博 (森田建設工業(株))・小川敦史 (小川建設工業(株))・加藤裕司 (加藤建設工業(株))・高橋拓也 (株高橋芝園土木)

### 地域貢献活動委員会

- 担当副会長** 鈴木達二 (鈴縫工業(株))  
**委員長** 内藤裕一郎 (株内藤工務店)  
**副委員長** 秋山正人 (株秋山工務店)・根本昌義 (株根本工務店)・瀬谷政行 (瀬谷建設(株))・高野弘康 (株高野工務店)・川崎和洋 (株川崎建設)・郡司誠 (株郡司建設)・菊池健郎 (株菊池土建)・串田一仁 (株クシタ建設)  
**委員** 大貫可奈以 (株大貫工務店)・桐原裕一 (株桐原工務店)・仙波秀教 (仙波建設(株))・高野和子 (株鯉淵工業)・高橋順子 (高橋建設工業(株))・若松亜紀子 (菅原建設(株))・益子朋 (益三建設(株))・岡田寿浩 (株岡田建設)・鈴木欽一 (株鈴木組)・生田目勝義 (株生田目工務店)・浅川宗典 (株浅川建設)・井上将人 (株井上工務店)・大内榮樹 (株大栄建設)・澤島弘樹 (東康建設工業(株))・清水亮 (株田本工務店)・高倉美佳 (高倉建設工業(株))・根本貴史 (株ネモト建設工業(株))・橋本将一 (株橋本建設(株))・八木満津雄 (株八木組)・石井愛理 (株石井工務店)・柳瀬香織 (海老根建設(株))・小野口整慶 (常陽開発工業(株))・齊藤卓也 (株齊藤建設工業)・菅谷一成 (株菅谷工務店)・新堀進也 (株新堀産業)・藤枝賢一 (株藤枝建設(株))・犬塚正一 (株和城産業)・大川雄生 (株サンワ興業)・城内浩和 (株大平工業)・保立明宏 (株宏洋)・松崎祐二 (株松崎建設(株))・櫻井郭実 (株櫻文工業)・福智勇人 (福智建設工業(株))・浅野麻由美 (株浅野物産(株))・成島隆平 (成島建設(株))・仲川将大 (株仲川建設)・大坂寛暁 (大坂建鋼(株))・鈴木茂 (株鈴木鉄工建設(株))・野中泰博 (常総ブロック(株))・青木敏紘 (株青木建設)・小澤淳 (小沢道路(株))・高崎弘道 (株高崎建設)・吉田長邦 (株吉田組)

### 広報委員会

- 担当副会長** 高田稔美 (株高田工務店)  
**委員長** 栗山秀樹 (株栗山工業(株))  
**副委員長** 生田目憲明 (株進栄)・小倉健太郎 (株小倉工務店)  
**委員** 池田大輔 (株コスモ総合建設(株))・宮本裕司 (株芳野工業(株))・塚原健一 (株塚原建設)・福智勇人 (福智建設工業(株))・細谷貴弘 (株細谷建設工業(株))・成島隆平 (成島建設(株))・石嶋尚 (株石島建設)・山本明宏 (株下妻建設)

## 令和2年度 役員名簿

地区	役職	氏名	商号
大宮・大子	会長	大曾根 理一郎	(株) 大曾根建設
県南	副会長(総務担当)	櫻井 俊一	櫻井建設工業(株)
高萩・太田	副会長(地域貢献活動担当)	鈴木 達二	鈴縫工業(株)
県西	副会長(人材・システム担当)	新井 紀雄	新井土木(株)
県南	副会長(広報担当)	高田 稔美	(株) 高田工務店
大宮・大子	総務委員長	長山 朋之	長山工業(株)
水戸	地域貢献活動委員長	内藤 裕一郎	(株) 内藤工務店
水戸	人材・システム委員長	田口 富之	(株) 田口工務店
県南	広報委員長	栗山 秀樹	栗山工業(株)
水戸	地区幹事	横田 修一	(株) 横田建設
高萩・太田	地区幹事	瀬谷 政行	瀬谷建設(株)
大宮・大子	地区幹事	河野 真	(株) 河野工務店
鹿行	地区幹事	郡司 誠	(株) 郡司建設
県南	地区幹事	鈴木 亮	北都建設工業(株)
県西	地区幹事	小倉 健太郎	(株) 小倉工務店
県西	監事	小澤 淳	小沢道路(株)
水戸	監事	荒川 繁美	水戸土建工業(株)
県南	監事	赤塚 剛	(株) 赤塚土木興業
大宮・大子	顧問	増子 秀典	増子建設(株)
県南	顧問	小林 圭一	谷原建設(株)

## ●卒業された皆さん

地区	氏名	商号
高萩・太田	小林 信昭	(株) 小林建設
大宮・大子	横須賀 靖	横信建材工業(株)
大宮・大子	石井 公彦	(株) 角石
鹿行	軍司 修利	グンジ建設(株)
鹿行	細田 誠一	誠殖産工業(株)
鹿行	茂木 充史	水郷建設(株)
鹿行	森 貴敬	森新建設(株)
県南	赤塚 康伸	赤塚工業(株)
県西	柴 直樹	(株) 柴建設
県西	菊池 忠行	(株) 菊池工業

## ●令和元年度 新規入会者

地区	氏名	商号
鹿行	飯島 新史	飯島建設(株)

## ●令和2年度 新規入会者

地区	氏名	商号
水戸	大貫 可奈以	(株) 大貫工務店
高萩・太田	菊池 康平	菊丸建設(株)
県南	佐々木 祐也	常磐建設(株)
県南	寺田 健一郎	(株) 羽原工務店

## 編集後記

2019年11月末に発生した新型コロナウイルス感染症は、中国全土へ広がり、2020年1月には日本でも感染症例が確認され瞬間に広がっていきました。4月には「緊急事態宣言」が発令される正に異常事態。茨城県も「特定警戒都道府県」に指定され、行動制限により経済的なダメージも計り知れないものとなっています。3密の回避、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）と勤務形態に大きく影響を与えている状況下、皆さんはどう過ごされていますか。仕事をする上で欠かせない人とのコミュニケーションに支障がでて、思うように事が運ばないケースも多々あるかと思えます。当協議会でも会員活動の縮小、総会の書面決議化と会員同士や各機関との交流機会が奪われている状況にあり、もどかしい限りであります。パンデミックの終息を迎え、皆さんと笑顔で語り合える日が待ち遠しくてたまりません。(T・N)